

TICAD IV 本会合の NGO 参加について（経緯説明）

【データ】

現在 ID 登録済みの NGO 関係者数＝84 名

- ① 日本 NGO 登録数 63 名（*TNnet 推薦）
- ② アフリカ NGO 10 団体 10 名（TICAD 共催者による招聘*渡航費支給*TNnet 推薦）
自費アフリカ NGO 4 団体 5 名（在外公館を通じての推薦・招待、渡航費自費負担）
- ③ 国際 NGO 6 団体（主催者による招待*渡航費は自費負担*TNnet 推薦 5 団体、1 団体は在外公館等による推薦）

【外務省からの通達（5 月 16 日）】

日本・海外 NGO 全員（84 名）に対し、3 枚のパスのみ発行と通達あり

5 月 16 日夕刻、外務省 NGO 担当から TNnet 事務局への電話で、①～③の NGO 関係者全員に対し、全体会議場へのアクセスパス 3 枚、分科会へのアクセスパス 2 枚 x 4 分科会しか発給できないと連絡あり。

【NGO 参加・パス登録に関する経緯説明】

2007 年 9 月 14 日	外務大臣宛要望書提出 TICAD プロセスにおける市民参加に関する要望
2008 年 1 月 30 日	大林 TCSF 代表・船田 TCSF 副代表が外務省を訪問 岡田アフリカ二課長、広木参事官と面会し、NGO のアクセスパスの数を確認。 日本の NGO は前回より少なくなる可能性があるが、アフリカ・国際 NGO については招待状を出す都合上、全員参加可能と確認。
2 月 13 日	木寺昌人アフリカ審議官へ要望書を手渡し TNnet が新任されて間もない木寺昌人アフリカ審議官を表敬訪問し「TICAD への市民参加に関する」要望書（添付資料①）を手渡した。その際、「小田部前審議官も目賀田前審議官も、前回よりも市民社会の参加が後退しないと約束してくださってきたので、引き継がれた木寺審議官もそのようにして頂きたい」という要望に対し、「市民社会の重要性はとてもよく理解しているので、できるだけ考慮するようにしたい」と返事をもらう。
3 月 5 日	外務省からの依頼書の受け取り 外務省から参加者とりまとめについての依頼書を受け取り、そこには「日本の NGO のアクセスパス」と「アフリカ NGO の推薦」、「国際 NGO の推薦」というように、区別の上明記されている。「日本 NGO のアクセスパス数については TICAD III 時は 10 枚であった」とも書かれる他、「アクセスパス」について書かれているのは日本の NGO についてのみである。
3 月～4 月	事務担当者同士のやりとり ① 日本 NGO のアクセスパス数・参加枠（人数）について、何度も確認をする が、数についての返答は一切もらえず。 ② アフリカ NGO について、招聘枠（共催者の旅費負担あり）とアクセスパス は同じ数のことを意味するかについては、「そうだ」との返事あり。
5 月 7 日	第 7 回定期協議会 木寺審議官より、4 月 28 日の超党派議員との合同会議を受け、市民社会の提案 について、もっともな意見が多く、その方向で調整しているとの言及あり。
5 月 16 日	事務レベル会合（10 時～12 時） 5 月 13 日に外務省から電話で「TICAD の NGO に関わるロジスティクス情報の 共有や相談をしたい」と言われ、事務レベル会合を実施。TNnet 事務局 2 名 （TNnet 事務局を務める TCSF 事務局長西岡・事務教員山田）と外務省 NGO 担当官 3 名（民間援助連携室青山氏・安永氏、アフリカ二課：栗林氏）がネッ トワーク事務局へ来て開催。「TNnet ではすでに TICAD 本番での本会合や分科 会などへ参加するためのローテーションを、アクセスパスの数を 10 と考え（前 回よりも後退しないという発言から）調整中。最終的なアクセスパス数につい

	<p>て、出来る限り早く回答を頂きたい」と伝えたところ、 「パスについては10よりもずっと少なくなっていると思います。」との返答。 この際、日本と海外のNGOのパスと一緒にまとめられることについては一切説明はなし。(これまでも一度もなし)</p> <p>*この際の「海外NGO」とは、外務省が持参した「海外NGOリスト」に記載されているNGO。同リストには、TNnet推薦、外務省や在外公館推薦の両方を 含むアフリカNGO・国際NGOが掲載。</p>
同日	<p>外務省青山NGO担当官から電話を受ける (夕方)</p> <p>「アクセスパスの枚数について数が決まった。全体会合では3枚、分科会については8枚が認められ、これは海外NGOのパスも含んだ数」との通達あり。 TNnet事務局からは、「日本のNGO全体で3という数か」どうかについて確認すると、「内外のNGOを含んだ数」との返答があった。(*海外のNGOとは、本文書冒頭の②～③のことを指すことを午前の会議で確認済み。リストも外務省から提供される)</p> <p>TNnet事務局から、「TICAD IIIでは、海外NGOはアクセスパスなしで全員中に入れたが？」と聞いたところ、「会場に入れる人数が限られているのでこれ以上は増やしたくても増やせない」という説明を受けた。</p> <p>TNnet事務局からは、これについて『正式に承った』ということではなく、事務的にただ聞いたということで、運営委員に伝える」と話す。</p>

【添付 (参考) 資料】

- 資料①：第四回アフリカ開発会議 (TICAD IV) への市民参加に関する要望書
資料②：外務省からの依頼書「TICAD IV 本会合参加について」